

基本目標 1 | 子ども主体の学び

目指す姿

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ります。児童生徒が自らの興味・関心、自身の理解や進度に合わせて学びを調整しながら、探究的に学びに取り組めるようにすることで、必要な資質・能力を育成し、次世代を担う持続可能な社会の創り手を育成します。

基本目標に対する指標

	指標名	基準値	目標値
主要指標	物事に取り組んだときに、どうすればもっとよくできるか考えることのできる児童生徒の割合	小:78.6% 中:85.0%	小:90% 中:90%
	課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童生徒の割合	小:80.6% 中:78.7%	小:90% 中:90%
参考指標	自分のペースで理解しながら、学習を進めることができる児童生徒の割合 (*中学生は令和8年度から調査予定です)	小:83% 中:—	小:90% 中:90%
	子どもたちに身に付けてほしい4つの力(4段階評価) (※)	対話 3.26 大切 3.24 学ぶ 3.07 挑戦 3.20	対話 3.3 大切 3.3 学ぶ 3.3 挑戦 3.3
	全国学力・学習状況調査 ¹² の結果(標準化得点 ¹³) (*理科は平成31年度、英語は令和5年度調査を基準とします)	小6:国 100 算 100 理 100 中3:国 100 数 100 理 100 英 101	小6:国 101 算 101 理 101 中3:国 101 数 101 理 101 英 102
	体育の授業を除く1週間の総運動時間として、1日に60分以上運動している児童生徒の割合	小:36.5% 中:62.0%	小:45.0% 中:65.0%
	市費会計年度任用職員の配置についての満足度	95.6%	100%
	1週間に読書を全くしない児童生徒の割合	小:17.1% 中:38.8%	小:2% 中:8%
	教員のICT活用状況	小:84.2% 中:79.4%	小:100% 中:100%
	英語を使ったコミュニケーションが好きだと答える児童生徒の割合	小:64.6% 中:60.1%	小:80% 中:80%
	C E F R A 1(英語検定3級程度)の英語力を有する中学3年生の割合	57.6%	70%

(※)4つの力は見直しを行い、令和8年度から新たな項目を設定しているため、設定した基準値は令和7年度の関連する項目の実績を集計した値としています。

¹² 全国学力・学習状況調査：文部科学省が全国的な児童生徒の学力や学習状況の把握・分析等をするために実施する調査で、毎年4月に小学6年生及び中学3年生を対象に実施

¹³ 標準化得点：全国の平均正答率を100として換算した場合に柏市の平均正答率を換算した値。全国と柏市の学力の状況を比較する際に用いている

施策1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

現状と課題

グローバル化や情報化など、子どもを取り巻く社会の急激な変化に対応するため、知識を一方向的に習得するだけでなく、一人一人の資質・能力や興味・関心に応じた学びを保障するとともに、多様な価値観に触れながら課題を解決していく学びが求められています。

児童生徒が主体的・自律的に学ぶ力を育成する「個別最適な学び」と、持続可能な社会の創り手となるために必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」を実現させていくことが求められています（p. 68参照）。

柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針での方向性

- 学び続ける力（アウトプット、主体性、多様性を重視した学び）を日常の授業で育成
- 認知能力（基礎的な知識・技能）（*）、非認知能力¹⁴（協調性や忍耐力などの社会情緒的スキル）の育成

（*）認知能力には、思考力・判断力・表現力等も含まれます。

取組

1-1	子ども主体の学びを行うための学校伴走支援	指導課
-----	----------------------	-----

子ども主体の学びを行うため、各校や中学校区単位での課題やビジョンを共有し、授業改善の視点を示し、学校が自走していけるよう伴走型の学校支援を行います。

また、教員が情報共有し、専門性の向上ができるよう、研修や支援を実施します。

指標	基準値	目標値
要請訪問 ¹⁵ やパーソナルサポート ¹⁶ の実施した学校の割合	74.6%	100%

1-2	探究的な学び ¹⁷ を実現できる教育課程の推進 	指導課
-----	---	-----

社会に開かれた教育課程の実現を目指すとともに、次期学習指導要領を見据え、児童生徒や地域の実態に応じたカリキュラム・マネジメント¹⁸の手段として、授業時数特例校制度¹⁹等の積極的な活用を推進し、探究的な学びの時間の確保に努めます。

指標	基準値	目標値
探究的な学びを実践している学校の割合	小:95.2%	小:100%
	中:90.4%	中:100%

¹⁴ 非認知能力：個人の能力のうち、いわゆる「認知能力（知識・技能や思考・判断・表現等も含まれる）」には該当しない種類の能力の総称。非認知能力（協調性や忍耐力等の社会情緒的スキル）には多様な内容が含まれる

¹⁵ 要請訪問：校内研修会の全体協議会、授業研究会等の指導・助言

¹⁶ パーソナルサポート：要請訪問に向けての指導案検討、個別相談、緊急の対応等

¹⁷ 探究的な学び：児童生徒が自分で課題を設定し、情報を収集・分析しながら、他者と協働して解決に向けて主体的に取り組む学び。

¹⁸ カリキュラム・マネジメント：文部科学省によって「学校教育の質を高めるために、教育課程を軸に学校全体の教育活動を組織的・計画的に改善・運営していく取り組み」として位置づけられている手法。教科横断的な視点での教育課程の編成・実施・改善、PDC Aサイクルに基づく教育活動の継続的な向上、教職員の連携や地域・保護者との協働を視野に入れた人的・物的資源の有効活用等を駆使して、社会に開かれた教育課程を実現していくことが目指されている

¹⁹ 授業時数特例校制度：p. 68参照

1-3	自己選択・自己決定する授業の推進 	指導課
-----	--	-----

個別最適な学びの推進に向けて、各校の実情を踏まえながら、自己選択・自己決定を重視する授業づくりに向けた情報提供や研修の機会を充実させていきます。

指標	基準値	目標値
自己選択・自己決定の授業を行う教科専門指導員 ²⁰ 等の授業公開数	2回	年20回

1-4	認知・非認知能力の調和を目指した学びの調査・研究	教育研究所
-----	--------------------------	-------

認知能力と非認知能力の一体的な育成を目指して調査研究を行います。

また、調査研究を基に学力・学習状況調査等²¹の活用研修を充実させ、学習指導の充実や学習状況の改善、子どもたちのウェルビーイングの向上を推進します。

指標	基準値	目標値
調査・研究の活用に向けた研修や情報発信の実施回数	3回	年3回以上

1-5	運動機会の充実	指導課
-----	---------	-----

- ・小学校体育サポート教室事業²²では、指導者を派遣し、体育授業を展開することで、児童が日常的に運動に取り組む力を向上させます。また、教員の体育授業におけるスキルアップを図ります。
- ・部活動の地域展開の推進により、自校の部活動にない種目への参加など、学校外での活動機会の創出を図ります。
- ・小学校水泳指導の委託を全校で継続します（うち2校はインストラクター派遣を実施予定）。中学校の水泳指導のあり方についても、調査・検討を進めます。

指標	基準値	目標値
小学校体育サポート教室事業の指導者派遣割合	85%	100%



写真1 部活動の地域展開

²⁰ 教科専門指導員：市内の小中学校において優れた授業実践を行っている教員を教科専門指導員に任命し、市内教職員に向けて授業参観の形で公開している。授業公開後には参観者で振り返りを行い、授業のポイントを整理して自己研鑽につなげている

²¹ 学力・学習状況調査等：文部科学省や市が児童生徒の学力や学習状況の把握・分析等をするために実施する調査

²² 小学校体育サポート教室事業：児童が主体的に活動し、成功体験を味わうことや、教師が運動の特性に応じた補助の仕方や運動する場の設定等を学ぶことを目的とし、民間スポーツクラブ講師を派遣する事業

1-6	専門職員の配置による学びを深める支援の充実	指導課 教育研究所
-----	-----------------------	--------------

- ・低学年児童への学習面、生活面へのきめ細かな支援を行うことで、認知能力、非認知能力の育成を目指します。学校へのアンケート等を通して、各学校の現状や希望を基に低学年支援教員²³の配置や支援を実施します。
 - ・理科教育支援員²⁴を適切に配置し、観察・実験の準備・片付けや理科室・理科準備室の環境整備、授業支援等を行うことで、理科教育の充実を図ります。
 - ・学校司書²⁵を適切に配置し、学校図書館の環境整備をはじめ、教科指導と連携した授業づくりを支援します。
 - ・IT教育支援アドバイザー²⁶による教員の教材作成、授業準備等の支援や児童生徒のGIGA端末利用時のサポートをすることで、ICTを効果的に活用できる環境を整備します。週1回程の派遣のほか、学校の要望に応じて業務依頼を行います。
 - ・各学校の現状や希望を基に市内小学校へ算数支援教員²⁷を配置します。児童の学び続ける力の育成に向けて、算数科におけるつまづき解消を目指し、担任と協働で児童への指導・支援を行います。
- また、教育専門アドバイザー²⁸（小学校算数）を配置し、算数支援教員及び学校現場の教職員への助言・指導や、算数科授業力向上のための研修等への助言・指導を行います。

指標	基準値	目標値
教育専門アドバイザーや指導主事による専門職員への訪問支援回数	291回	年440回

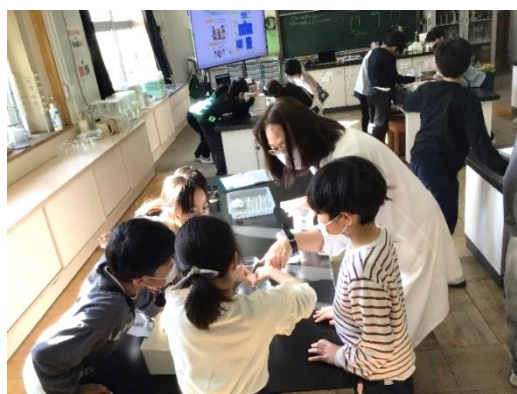


写真2 理科教育支援員による授業支援

²³ 低学年支援教員：小学校1・2年生の授業補助、生活補助等を行うことで、児童の実態に応じたきめ細かな指導を実施し、学ぶ意欲の定着につなげるために、市費により配置する教員免許を持った会計年度任用職員

²⁴ 理科教育支援員：理科授業における指導補助や実験や教材等の準備等を行うため、市費により各学校に配置する会計年度任用職員

²⁵ 学校司書：学校図書館において司書にあたる業務を行う職員

²⁶ IT教育支援アドバイザー：教職員や児童生徒がICTを活用する際の支援やトラブルが起きた際の対応等を行うため、市費（委託）により配置する者

²⁷ 算数支援教員：指定小学校において、算数科における授業支援を行うため、市費により配置する教員免許を持った会計年度任用職員

²⁸ 教育専門アドバイザー：学校図書館、教科指導等に関する助言・支援を行うため市費により配置する会計年度任用職員。指導力の強化が必要とされる分野や各校の中核となる教職員を対象として配置する

1-7	豊かな心を育む道徳教育の推進	指導課
<ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教科道徳」を核とし、自ら考え、判断する力を育む道徳教育を推進します。 ・各校で作成した道徳教育全体計画を収集し、取組状況を確認のうえ情報共有できる体制を整備します。 		
指標	基準値	目標値
道徳の授業支援を行った学校の割合	33.3%	100%

1-8	読書活動の推進	指導課
<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館がラーニングコモンズ²⁹としての役割を果たすよう、目的を持った読書活動を推進します。 ・市立図書館と連携した取り組みとして、小学校では子ども司書講座や「夏休みおすすめ本コレクション（POP）」の展示、中学校を対象として開催しているビブリオバトル³⁰を継続して実施します。 ・学校図書館運営マニュアルや授業で活用する単元を絞った学校図書館の活用リーフレット（毎年更新）を配布します。 ・電子版の百科事典など、調べ学習に活用できるコンテンツについて研修等で周知していきます。 ・学校図書館に関わるアドバイザーやコーディネーターにより、教職員に対する探究的な学びの推進につながる研修の実施や学校支援の充実を図ります。 		
指標	基準値	目標値
学校図書館に関わるアドバイザーやコーディネーターの訪問支援回数	142回	年189回 (年3回/校)



写真3 学校司書による読み聞かせ

²⁹ ラーニングコモンズ：学校図書館等における、読書だけでなく、調べ活動やグループでの学び合いを目的とした多目的な共有スペース

³⁰ ビブリオバトル：発表者がおすすめの本を紹介し、その発表を聞いて「一番読みたくなった本」を投票で選び、本の魅力を共有する、読書の楽しさと知的交流を広げるイベント。知的書評合戦

柏市で育む4つの力

○ はじめに

教育分野をはじめとする様々な領域で、経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいをつめる「ウェルビーイング」という考え方が重視され、認知能力だけでなく、非認知能力（社会情緒的スキル）への関心が国際的に高まっています。

柏市では、平成28年度からの柏市教育振興計画後期基本計画や令和3年度からの第2次柏市教育振興計画において、子どもたちに身に付けてほしい力を4つの力として示し、目指す姿に向けて各種取組を進めてきました。

こうした取組を踏まえ、「柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針」の策定を受けて、「柏市の学校教育が目指す子ども像」を測る指標として、これまでの4つの力の枠組みを踏襲しつつ見直しを行いました。

○ 4つの力とは

これまで、そしてこれからも柏市の学校教育を通じて育みたい4つの力です。

今回の4つの力には、それぞれ3つの重点項目を設定し、大切にしたい学びの姿を示しています。子どもも大人もこれらの姿を考えながら、学校教育を通じて育んでいきます。

★4つの力と重点項目（p.69 参照）



施策2 デジタル学習基盤³¹による情報活用能力³²の育成

現状と課題

近年、社会情勢の変化に伴い、教育分野におけるDXはますます進展し、遠隔・オンライン教育など、学びの在り方が大きく変化しています。そこで柏市では「学校教育情報化推進計画」(p.70参照)を策定し、学校教育における更なる情報化を推進しています。

学校教育においては、1人1台端末の活用や教育データによる学びの個別最適化、オンライン教育の推進、課題やニーズの早期発見・対応、校務の効率化等を通じて、新たな学びへの着実な移行を目指す必要があります。

さらに、デジタル技術の活用とともに、これまでの学校教育で重視されてきた対面での指導や、学び合い、多様な体験活動など、従来の学校教育の特徴も活かしつつ、デジタルとアナログ、オンラインと対面の最適な組み合わせによって教育効果を向上させていくことが重要です。

取組

2-1	1人1台端末を活用した授業改善	指導課
	<ul style="list-style-type: none">・ 2nd G I G A ³³に向けて教員の授業観の転換を図り、情報活用能力の育成を念頭に、目的をもって児童生徒に委ねる場面を積極的に設定できるよう研修や支援を行います。・ 学校間格差の是正に向けて、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる実践や、情報活用能力の育成・発揮に向けた実践等の情報共有や研修を行います。	
指標	基準値	目標値
1人1台端末に係る活用研修の公開動画数	1件	5件



³¹ デジタル学習基盤：児童生徒の学びを支えるために整備された、ICT端末・ネットワーク・クラウド環境・教育ソフトウェア等を含む教育環境の総体を指す言葉。すべての児童生徒に「1人1台端末」と「高速ネットワーク環境」を整備するなど、個別最適で協働的な学びを実現するための国の教育ICT政策(GIGAスクール構想)を実現するための基盤として位置づけられている

³² 情報活用能力：必要な情報を収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況等を踏まえて発信・伝達できる能力(ICTの基本的な操作スキルを含む。)や、情報の科学的理解、情報社会に参画する態度

³³ 2nd G I G A：国の教育ICT政策であるGIGAスクール構想の第2期にあたる取組で、ICT環境の「整備」から「活用」へと進化させるフェーズ。2024年度から本格的に始動している。端末・ネットワークの更新と安定化、教育データの利活用、教員のICT活用能力の向上と働き方改革等を目指している

2-2	情報モラル教育の推進	指導課 少年補導センター
-----	------------	-----------------

- ・各学校の課題や要望に応じて、指導主事を派遣して出前授業を実施します。出前授業は、児童生徒が普段から意識すべきことや直面する諸課題について、児童生徒が自分で考え、解決できる力を身に付けることを目指し、内容を工夫して実施します。
- ・情報モラル教材を活用し、発達段階に応じた指導が行えるよう、様々な事例のアニメーション動画、指導案・ワークシート資料、情報モラルC B T³⁴等を提供するほか、ITアドバイザーOnline「柏市情報モラル・リテラシー（授業で使える教材）」コーナーを設け、これらのコンテンツの提供及び周知に努めます。

指標	基準値	目標値
情報モラル教材の活用実績	87%	100%

2-3	柏市情報リテラシー育成カリキュラムの実施	指導課
-----	----------------------	-----

- ・柏市情報リテラシー育成カリキュラムに基づき、小中9年間において体系的に情報活用能力の育成を進めます。
- ・IT教育支援アドバイザーによるICT活用支援の充実を図ります。

指標	基準値	目標値
IT教育支援アドバイザーの活用実績数（週平均）	1.4日	2日



写真4 情報モラル出前授業の様子



写真5 IT教育支援アドバイザーによる支援

第2部

基本目標1

基本目標2

基本目標3

基本目標4

基本目標5

³⁴ 情報モラルC B T：児童・生徒の情報モラルの知識理解や判断力を判定するためのコンピュータを使用したテスト。テスト結果から個別の学習状況やクラス全体の傾向を確認することができ、授業づくりに活用することを目的としている。C B TはComputer Based Testingの略

施策3 グローカル人材の育成

現状と課題

グローバル化が進む現代社会において、日本や郷土への愛着や誇りを持ちつつ、世界で活躍する人材や、グローバルな視点を持って地域コミュニティを支える人材を育成していくことがますます求められています。このような「グローバル³⁵人材」の育成に向けて、国際理解教育を推進していくことや、コミュニティ・スクール等を活用して地域と連携した地域学習を深めていき、「Think globally, Act locally³⁶」の視点で、持続可能な社会の創り手を育成していくことが重要です。

柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針での方向性

- 英語教育・国際理解教育の推進
- 英語力の向上を図るための環境整備
- 地域と連携した地域学習の推進

取組

3-1	外国語を学び、多様な他者と触れ合う機会の創出	指導課
	<ul style="list-style-type: none">・児童生徒が授業で学んだ英語を活かす場として、国際交流会や Online Kashiwa English Camp など、実際に交流の機会を創出することで推進していきます。・市内外にある各機関と連携・協働し、外国語を体験的に学ぶ機会の充実を図ります。・授業内外でALT³⁷、小学校外国語授業支援員³⁸と触れ合う機会を創出することで、自国のよさを知った上で、英語をより身近なものとして認識できるようにしていきます。 <p>(※国際交流事業については p. 32 も参照)</p>	
指標	基準値	目標値
国際交流の機会	32回	年63回



³⁵ グローカル：国際化社会において「全世界」と「地域」とを同時に見据えたあり方を指す言葉。「世界的な・地球規模の」(globalization)と「地域的な・地域レベルの」(localization)を合わせた造語である

³⁶ Think globally, Act locally：「世界規模で物事を考え、地域で活動する」を意味する言葉

³⁷ ALT：主に外国語教育の充実を図るため、担任や外国語担当教員等の助手として、市費により配置する外国人指導者(会計年度任用職員又は派遣労働者)。Assistant Language Teacherの略語

³⁸ 小学校外国語授業支援員：外国語教育の充実を図るため、担任や専科の補助として、市費により小学校に配置する英語が堪能な日本人のこと

3-2	英語力を高める授業の推進	指導課
-----	--------------	-----

「英語によるコミュニケーションが好き」という子どもたちの気持ちを高め、「もっと学びたい」という意欲につなげていけるよう、英語力を高める授業を推進していきます。

また、児童生徒が授業で得た向上心を検定等への挑戦につなげていけるよう、検定料の助成について、他自治体の事例を調査研究していきます（p. 70 参照）。

指標	基準値	目標値
英語でのコミュニケーションを重視した研修の実施回数	2回	年3回

3-3	地域連携カリキュラムの推進	指導課
-----	---------------	-----

地域に愛着をもち、ふるさと柏の未来を創る人材を育成するため、社会に開かれた教育課程の視点のもと作成された、地域学習や地域と連携する教育活動を体系的に示したカリキュラム（グランドデザインや単元配列表等）を収集し、市内各学校に共有します。

指標	基準値	目標値
カリキュラム共有事例数	0事例	21事例

3-4	市立柏高等学校におけるキャリア教育	市立柏高等学校 教職員課
-----	-------------------	-----------------

全学年を対象としたインターンシップ³⁹のほか、講演会や課題解決型の探究活動など、各年次に応じた地域に根差したキャリア教育を実施します。

指標	基準値	目標値
インターンシップの参加希望人数	24人	年30人



写真6 社会科の授業での地域学習

³⁹ インターンシップ：学生が在学中に、企業等で労働に従事し、業務に携わる体験をすること

国際交流事業

○ 国際交流事業について

グローバル化が加速する中、自国や郷土への愛着や誇りを持ち、世界で活躍する人材や、グローバルな視点を持って地域コミュニティを支える人材を育成することが求められます。

柏市では、外国語教育にとどまらず、多様な他者とのコミュニケーションの中で、自他の良さに気づき、発信力を養う体験的な学びを創出、推進します。

【国際交流会】



国際交流会では、ALTがチームで訪問し、授業を行います。

子どもたちにとっては、学んだ英語を活かし、様々な国から来ている多様な他者と関わる機会になります。

【Kashiwa Online English Camp】



子どもたちが1人1台端末を活用し、ALTから出される課題に、英語で説明する動画を提出します。

すべての生徒にALTからメッセージによるフィードバックが送られます。

【各機関との連携による交流事業】



柏市国際交流協会や柏市近隣の各教育機関、海外の大学と連携し、対面やオンラインによる国際的な交流の機会を創出しています。今後も交流の対象を拡大していきます。